

2022.11.8

OECEMに関する情報交換会

あいち生物多様性戦略2030 の取組について

愛知県環境局環境政策部
自然環境課

あいちの生物多様性の 目指すべき姿 (戦略より抜粋)



あいち生物多様性戦略2030 (2021年2月公表)

長期目標 (2050年ビジョン)

人と自然が共生するあいち

様々な立場の人々が生物多様性への意識を高め、そのコラボレーション（協働）によって生きものがすむ場所が確保され、本来、その場所にいるべき野生の生きものと人が共に生きていけるあいち

計画目標 (2030年目標)

人と自然の共生に向けて、生物多様性を主流化し、あらゆる立場の人々が連携して最大限の行動をとることにより、生物多様性の保全と持続可能な利用を社会実装し、その回復に転じる。

あいち生物多様性戦略2030

～持続可能な社会づくりに向けて～



あいち方式2030

全ての主体の協働により、生物多様性の保全を進める

生態系ネットワークの形成

科学的知見に基づく多様な協働により、生物の生息成育場所を確保し、つなげていく。

生物多様性の主流化の加速

県民の日常生活、企業や行政等の社会経済活動に生物多様性が組み込まれ、行動につながる。



重点プロジェクト（10項目）

- A 湿地・里山ネットワーク、B 希少な動植物の保全、C 外来生物対策の強化、
- D 地域の保全活動活性化、 E 都市の自然の価値再発見、
- F 鳥獣の保護・管理の推進、G 事業者の保全活動の推進、
- H あいちの自然体感の推進、I 国際連携の推進、
- J 「あいち方式2030」推進プラットフォームの構築

3 重点プロジェクト（10項目）

項目	概要
A 湿地・里山ネットワーク	湧水湿地や里山の状況を把握し、保全活動を誘導し、湿地・里山生態系の保全を図る。
B 希少な動植物の保全	県内の希少な動植物種を保護し、野生絶滅を防ぐ。
C 外来生物対策の強化	侵略的外来生物の早期発見、早期防除に取り組み、生態系の保全を図る。
D 地域の保全活動活性化	生態系ネットワーク協議会の活性化、地域の生態系の保全・再生、ネットワーク化を図る。
E 都市の自然の価値再発見	都市域において、生物多様性の普及啓発を行い、身のまわりの自然の再発見を促す。
F 鳥獣の保護・管理の推進	近年増加が著しいシカ、イノシシの捕獲強化
G 事業者の保全活動の推進	事業活動における生物多様性への配慮の推進 （企業の認証制度、企業のNPO支援等）
H あいちの自然体感の推進	自然公園をはじめとした自然資源の利用促進
I 国際連携の推進	国内外の自治体との連携・交流、国際情勢の報告
J 「あいち方式2030」推進プラットフォームの構築	県内の自然史情報の集約・整理 様々な主体による連携のコーディネート

重点プロジェクトA：湿地・里山保全活動の活性化

- ・ 県内に600か所以上の湧水湿地が存在し、希少野生生物の宝庫となっている
-
- ・ 一部は、ラムサール条約登録、自然環境保全地域、天然記念物等により担保
- ・ 湿地保全には、植生等の管理が不可欠



長ノ山湿原（県天然記念物・新城市）



ハッチョウトンボ



重点プロジェクトD：地域の環境保全活動の活性化

- ・生態系ネットワーク協議会の活動の活性化
- ・地域の目標や取組の方向性を共有し、生態系の保全・再生に取り組む。

【目標】 生態系ネットワーク協議会の参加団体数 284→350
市町村の生物多様性戦略策定数 10→40

生態系ネットワーク協議会の機能強化

- ・環境モニタリング
- ・新たな活動のコーディネート
- ・外来生物の駆除、希少種や湿地の保全
- ・隣県との連携強化（木曾三川 等）

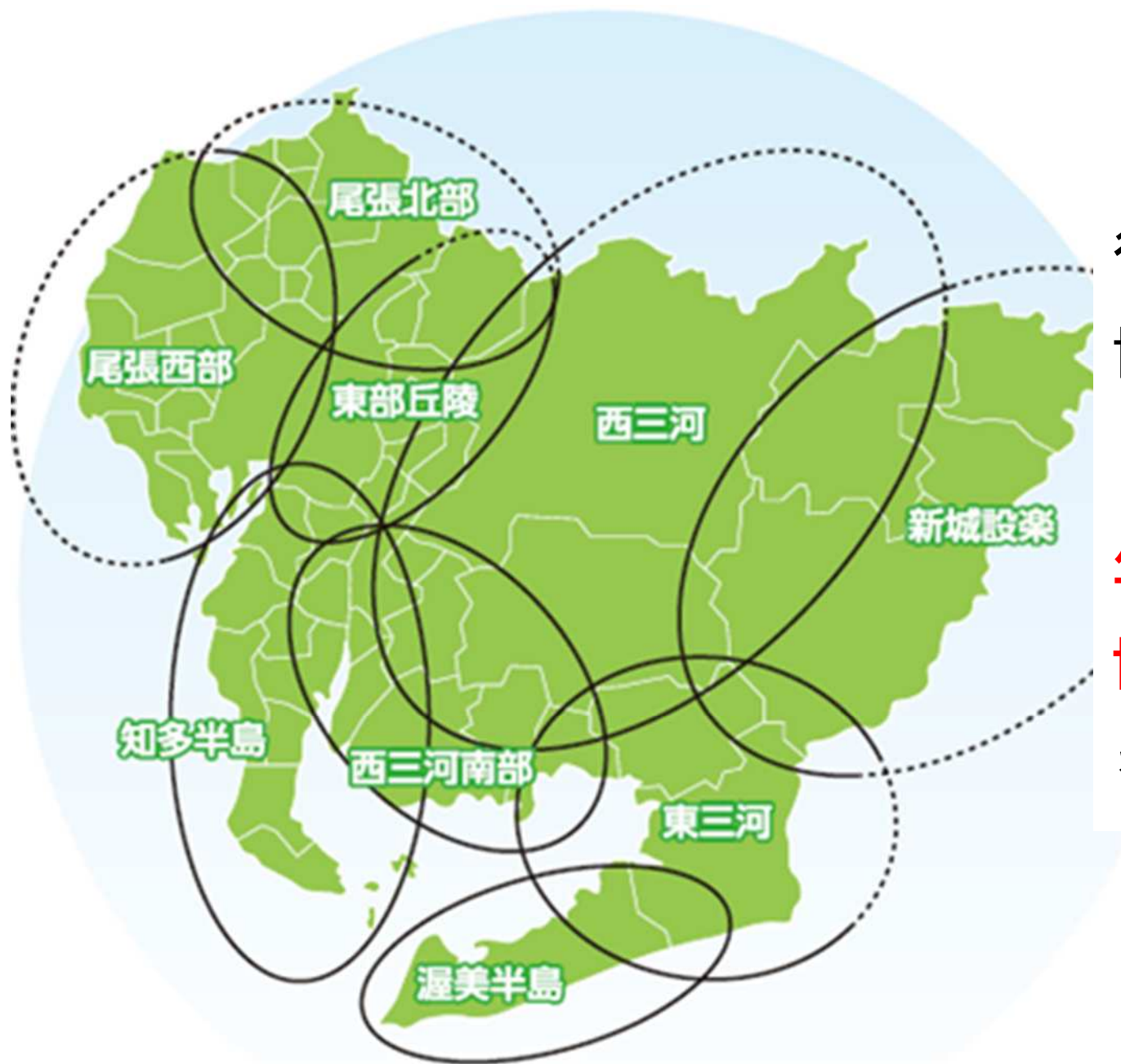
ユース活動の展開（命をつなぐ、GAIA）

- ・次世代を担うユースの育成
- ・市民団体等と連携した保全活動の実施
- ・ユース世代を核とした情報発信

市町村の活動の活性化

- ・生物多様性戦略の策定
⇒19自治体が策定（2021年5月現在）
- ・地域に根ざした保全活動の実施

重点プロジェクトD：生態系ネットワーク協議会



大学、NPO、企業、
行政など多様な主体の
協働の場として、県内
9地域で
**生態系ネットワーク
協議会**
を設立（2011～2016）

生態系ネットワーク協議会の取組事例



- 1 鳥と生きものの学習会
(尾張西部)
- 2 ため池を結ぶ回廊整備活動
(尾張北部)
- 3 広葉樹の植樹 (新城設楽)
- 4 企業緑地での保全活動
(知多半島)
- 5 アカミミガメ駆除 (西三河)

重点プロジェクトJ: あいち生物多様性サポーターズ

自然や生きもの応援してくれるみなさん!

募
集

あいち生物多様性 サポーターズ

「人と自然が共生するあいち」に向けて、生物多様性に配慮した行動を始めませんか。



個人サポーター

- ・自然や生きものに関心のある方



団体サポーター

- ・生物多様性保全に貢献していきたい企業
- ・県内で生物多様性保全に取り組んでいる NPO などの各種団体

登録はこちらから

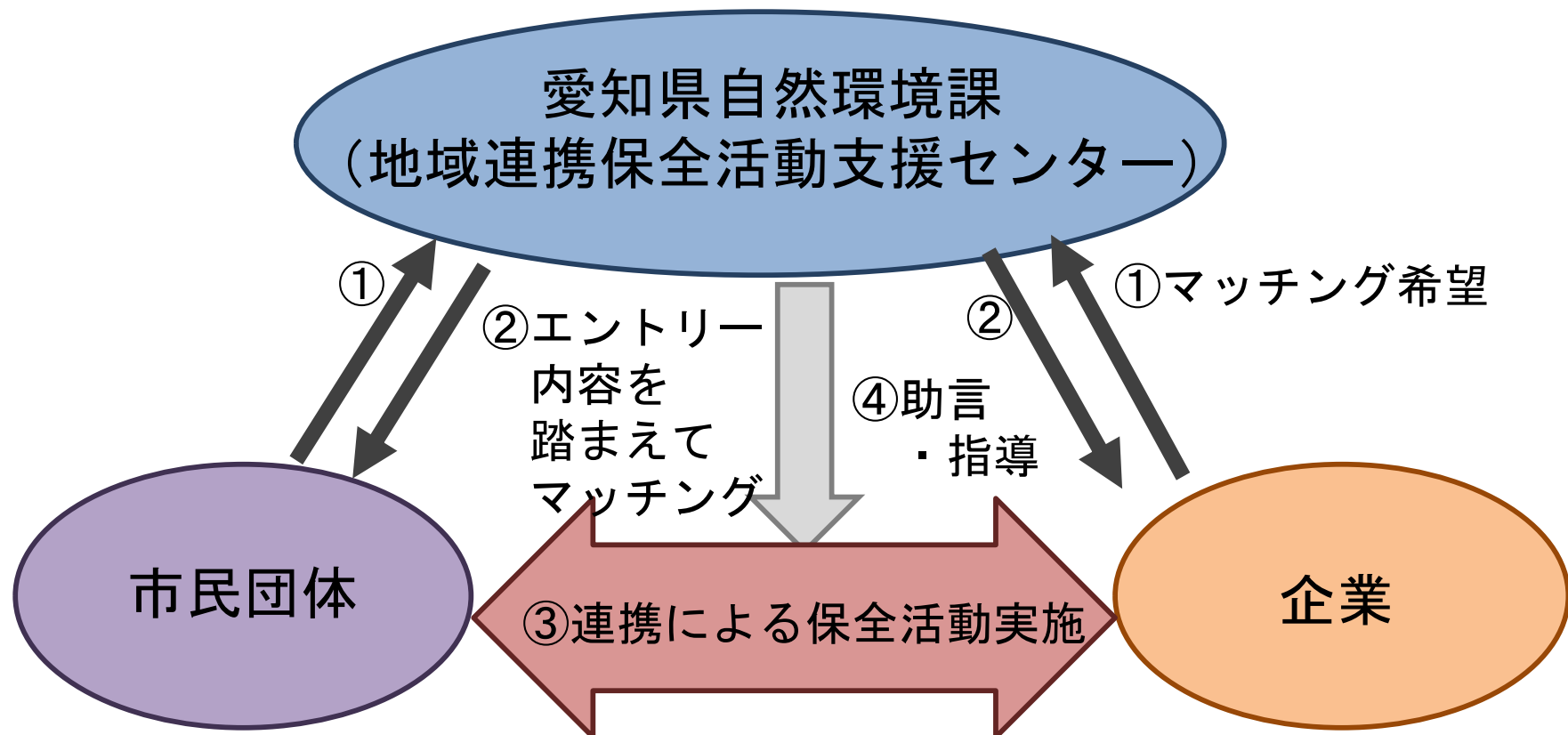


※登録いただいた方には、**生物多様性に係るイベントなどの情報**をお届けします。

重点プロジェクトG：保全団体と事業者のマッチング

様々な課題を抱える保全活動団体と、企業の社会貢献ニーズを効果的に結びつける。

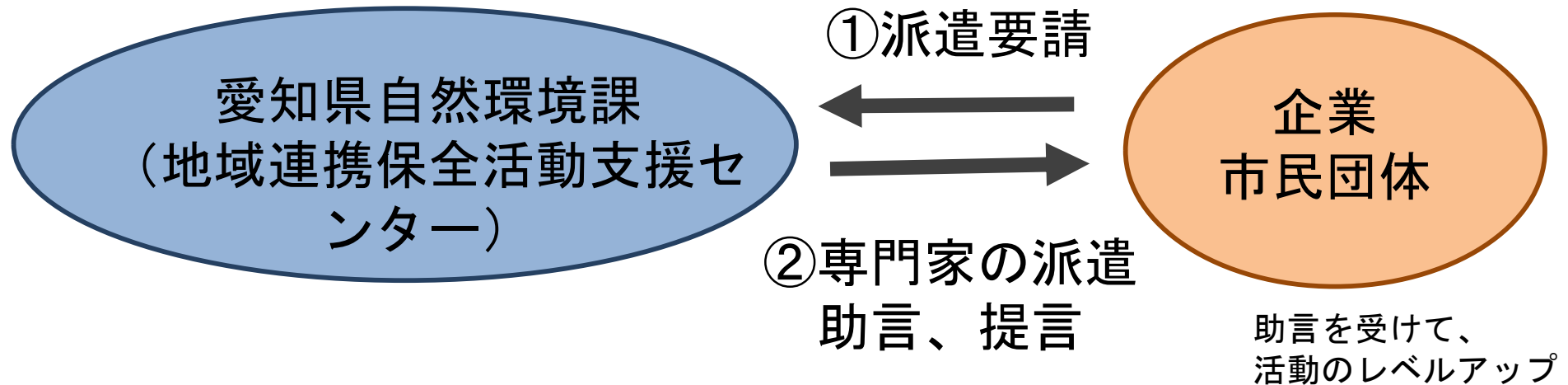
→ 市民団体と企業の協働による保全活動の発展



重点プロジェクトG：専門家派遣

保全活動で技術的課題等を抱える団体に対し、
県から専門家を派遣し、活動を支援する。

→ 科学的知見を踏まえた保全活動の実践



重点プロジェクトG: あいち生物多様性企業認証制度

企業の生物多様性保全に関する取組を促進するため、優れた取組を実践している企業を認証

〈対象〉

愛知県内に本社又は事業所を置く企業

〈評価の区分〉

- ①認証 生物多様性保全に貢献する取組を行っている企業
- ②優良認証 広がりや継続性があるなど、特に優れた取組を行っている企業



あいち生物多様性
企業認証

評価項目（全体）



大項目	概要
組織の方針・体制等	方針・目標や取組計画の策定状況、人材育成等を評価する。
（豊かな生態系を） まもる	希少種保全、外来種駆除、脱炭素社会・循環型社会の形成に向けた環境配慮経営等を評価する。
（生息生育空間を） つなげる	生態系ネットワーク形成（植樹、ビオトープ整備等）、他主体との連携、専門家の意見反映等を評価する。
（生きものの恵みを） つかう	サプライチェーンの環境負荷低減、生物機能を生かした技術・製造等を評価する。
（人と自然との共生を） ひろめる	普及啓発、活動成果の一般開放、SDGsへの取組、生態系ネットワーク協議会等への参画等を評価する。



あいち生物多様性
企業認証

2022年度の状況

4月4日～7月29日	認証申請の募集(応募数40社)
10月13日	外部有識者による審査会
10月21日	結果通知
11月14日	認証式(認証書授与)

区分	企業数
優良認証	15社
認証	25社

認証のメリット

- (1) 認証書の授与
- (2) 認証企業マークの使用
- (3) 企業の取組を県Webページで紹介